

出 展 団 体 様 限 定 公 開

NAFSA2025 サンディエゴ大会 《STUDY IN JAPAN 日本合同ブース》 出展団体様アンケート集計結果

回答：ブース出展 28団体中 28団体（回答率：100.0%）

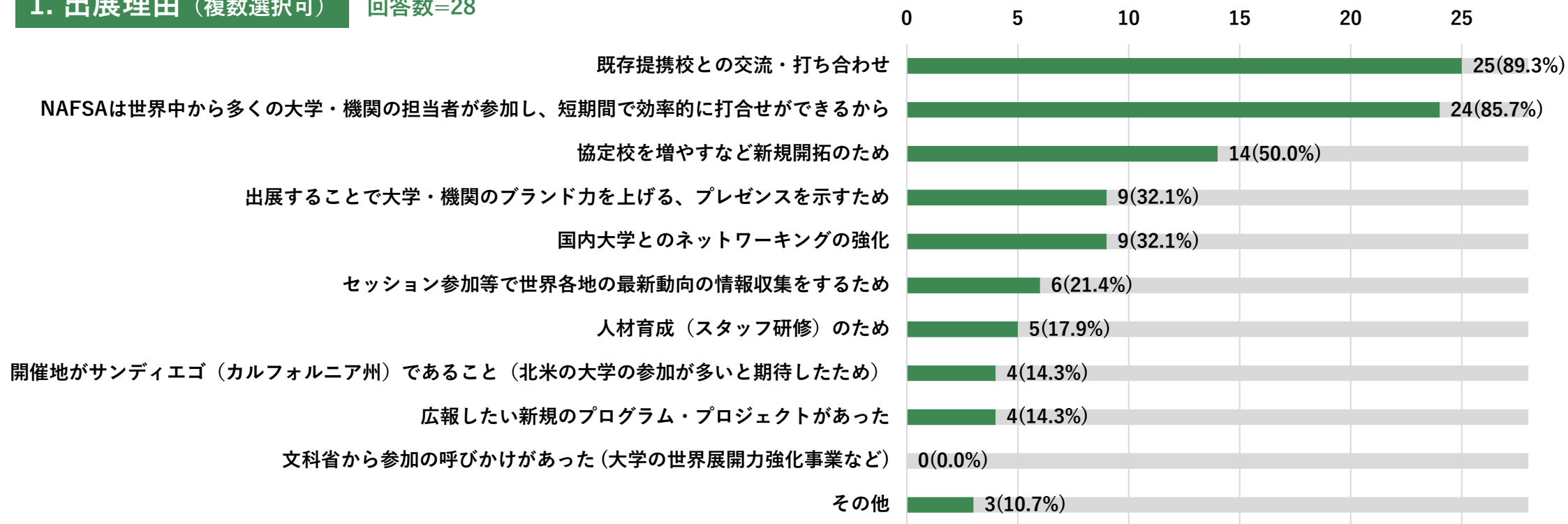
◎大会終了後（2025年7月）にWEBアンケートを実施。

◎実際に参加された教職員の方に回答を依頼。

1 NAFSA2025サンディエゴ大会に出展した理由を教えてください。

1. 出展理由（複数選択可）

回答数=28

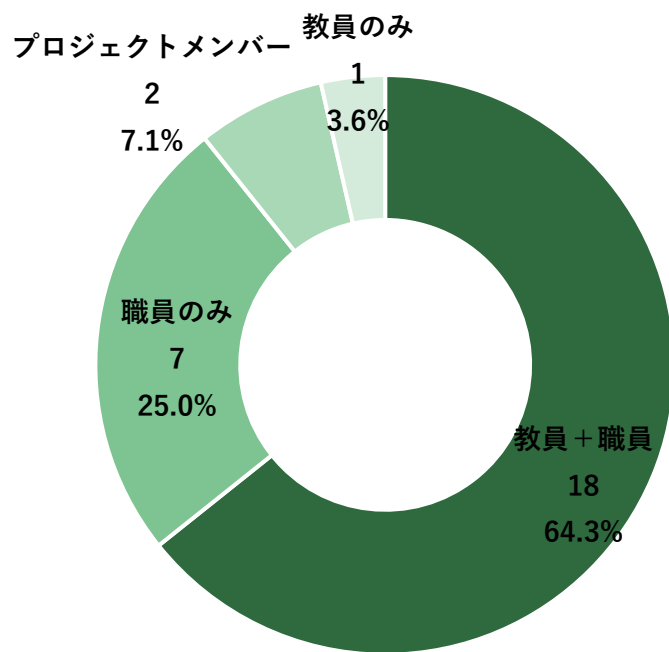


- 【その他】
- 本学が所属するイエズス会大学国際連合のネットワーキングの強化
 - 新規のプログラムへの連携協力打診
 - StudyinJapanパビリオンの共同運営のため

2 ブース対応の出展者についてお伺いいたします。

2-1. 出展者カテゴリー（複数選択可）

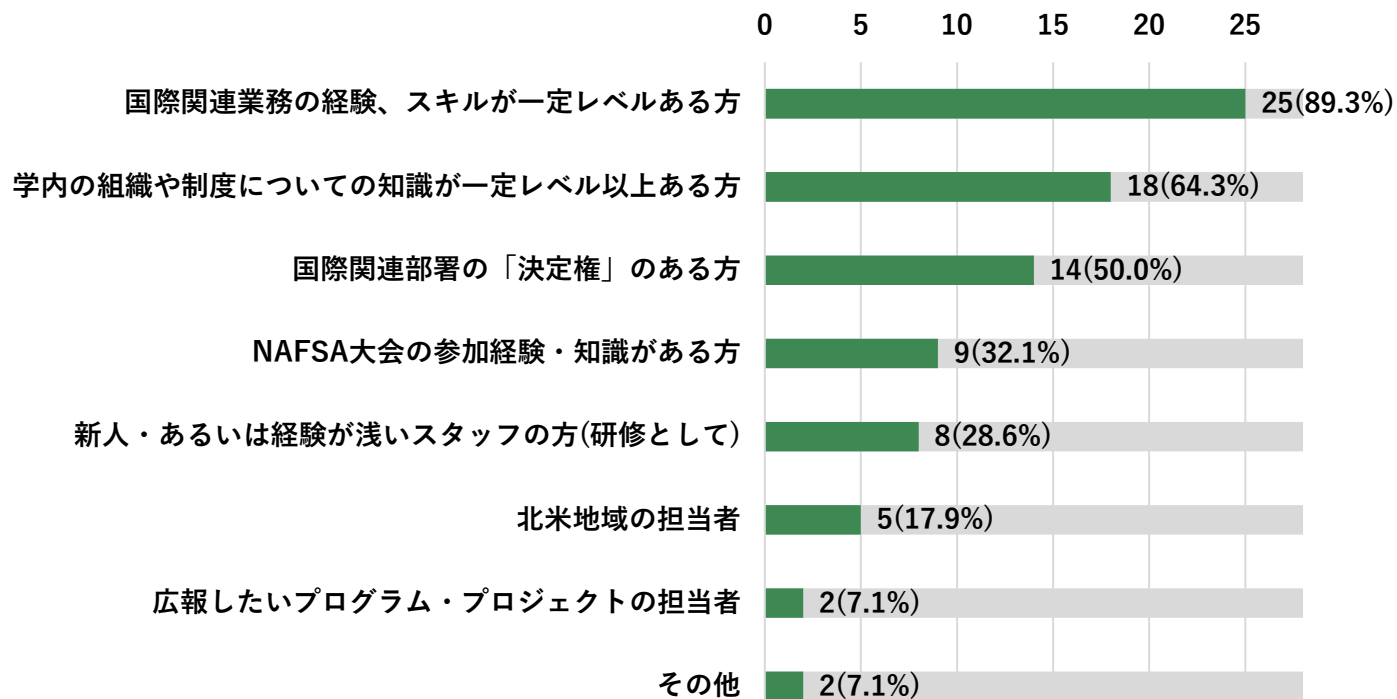
回答数=28



※複数回答可としていたが、単一回答のみのため円グラフにて集計

2-2. 出展者選出の基準（複数選択可）

回答数=28



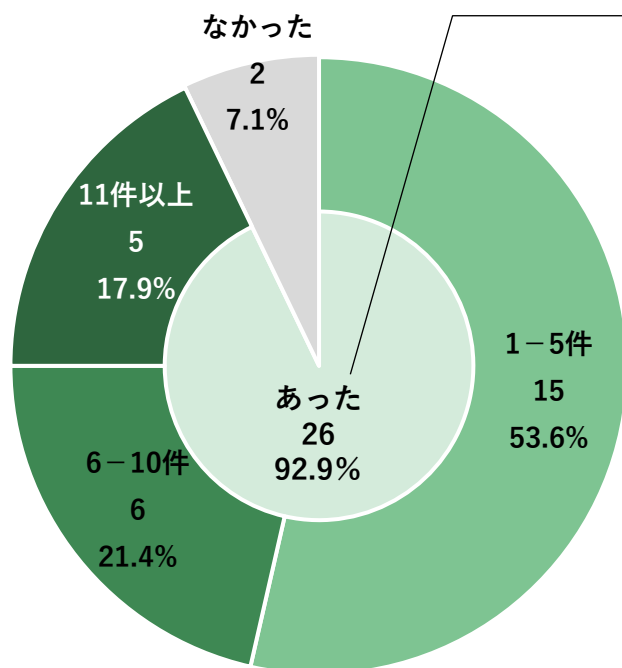
【その他】 ■ NAFSA関連業務の担当
■ 国際関連部署の上長が選出する

3

対面の大会では、事前のアポイント無しブース訪問が生まれやすいと思います。
貴学ブースでも「飛び入りの打合せ」がありましたか。

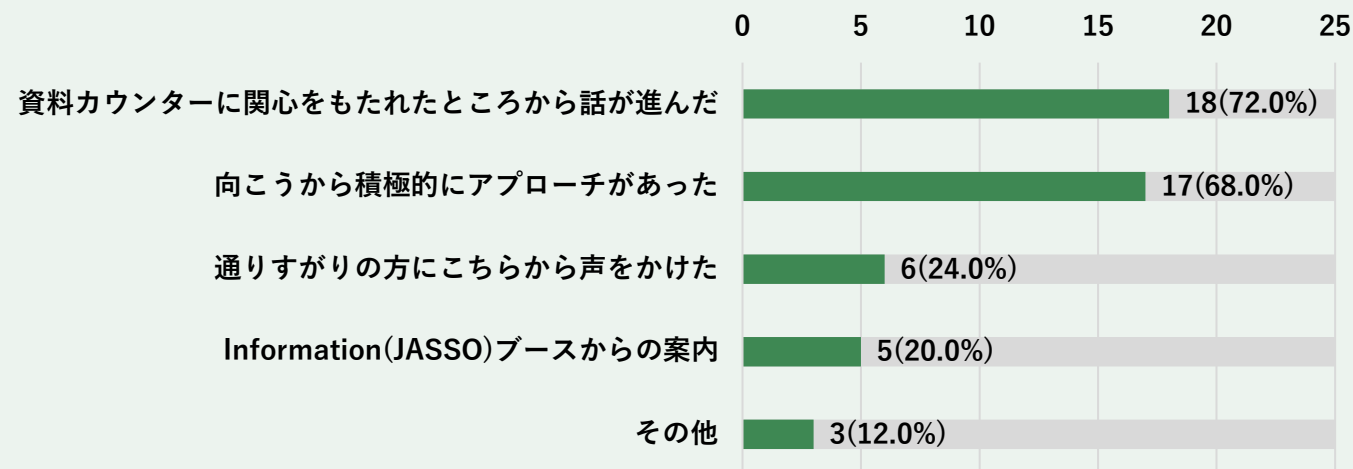
3-1. 飛び入りの打合せ件数（単一選択）

回答数=28



3-2. 打合せのきっかけ（複数選択可）

回答数=25



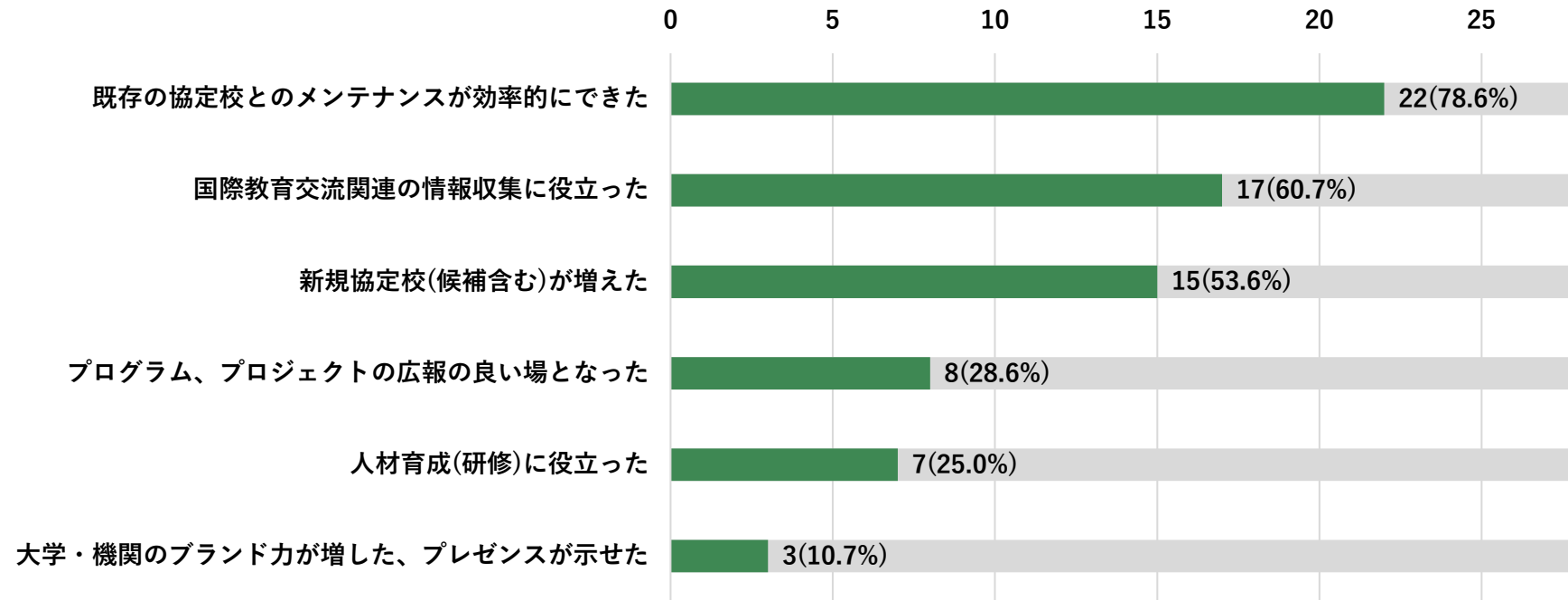
- 【その他】
- 元々話があったところから時間があれば話したいと言われて設定した
 - フードコートで声をかけられた
 - 大会前にメールでアプローチをしました

4

出展した成果について教えてください。

4-1. 出展成果（複数選択可）

回答数=28



4

出展した成果について教えてください。

4-2. 成果の具体的な内容（自由記述）

回答数=20

- 人事異動が多く経験の浅い職員に経験を積んでもらうことができた。また、米国ビザを取り巻く環境について国内外の大学と情報交換ができた。
- ・10以上の大学と交換留学協定締結について、具体的に話を進められるようになった。
・それらの大学を含め、50以上の大学とミーティングを行うことができた。
・留学生受入れプログラムについて、本学として、現状からどのように改善をしていくことが必要であるか確認をすることができた。
- 近年、力を入れている地域（南アジア）との連携強化ができた。
北米の情勢の現況把握ができた。
世界の高等教育機関のトレンドが把握できた。
- 現在2つの新規協定校と話が進んでいます。
- 既存協定校との連携強化を主な目的として、計17校の協定校および1校の新規協定候補校と対面での面談を実施した。学生交換の受入・派遣条件や語学要件、各大学の最新プログラムについて意見交換を行い、実務的な情報を得ることができた。また、語学プログラムの受入れ条件の柔軟化に関する協議も進められ、今後の新たな連携の可能性が広がる実り多い機会となった。
- 米国入国ビザ問題の発生直後であったため、現場の生の声を聞くことができた。
- 今まで連携のなかったコスタリカの大学情報を得ることができた。また、米国協定校の担当の現米政権の方針について意見を聞くことができた。
- 既存の協定校と近況報告や情報交換をすることができた、イギリスの大学と新たに協定を締結するきっかけとなった
- 周囲の日本ブースの方々と、特にアメリカ協定校対策の話などができたことも役立ちました。今年度は特にこの件が印象に残っています。

4

出展した成果について教えてください。

4-2. 成果の具体的な内容（自由記述）

回答数=20

- ・変化著しい社会情勢の中、各国の高等教育機関の現状に関する情報収集が効率的にできた。
・協定校とメール等でしにくい案件の情報交換が効率的にできた。
- 大学の国際化議論を進めていくうえでのトレンドの把握および情報が得られた
- 世界かが日本の高等教育機関に何を求めているのかが見えた（英語プログラムの充実等）
- 協定校が8校増えた。
- 協定校候補となっていた大学のキャンパスを実際に訪ねたり、気に入っているプログラムの担当者と直接話せたので、色々な情報収取と関係性作りができました。
- 今まで提携がない南アジアエリアの教育機関に働きかけをすることができた
- 世界中の教育機関やプロバイダーと情報を交換することができました
- 協定校担当者と具体的な懸案事項についての共有や議論、お互いの大学についての近況アップデート、本学のプログラムの特徴や強みのアピール等ができた。
- 協定校が4校増えた
- 今まで交流のなかった諸国との協定締結のきっかけとなった
- 特に東南アジア、東欧のエリアとの結びつきにつながった。

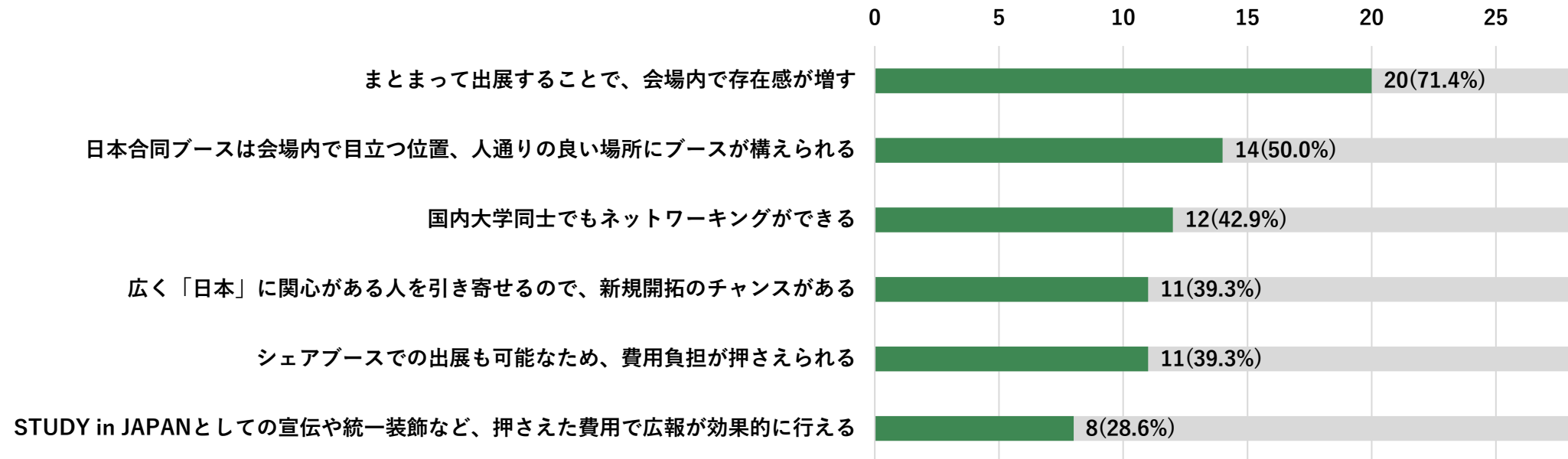
5

単独ブース(1大学のみで出展)でなく、

「日本合同ブース」で出展するメリットをどこに強く感じますか。

5. 「日本合同ブース」出展のメリット (3つまで選択可)

回答数=28



NAFSA2025サンディエゴ大会に 参加された感想や出展に関するご意見などをお聞かせください。

8. NAFSA2025の感想・意見（自由記述）

回答数=16

- 初年度の参加のため、過去の大会との比較はできませんが、本学としては、期待以上の成果となりました。また個人としても、改めて、業務に対して、精進したいと思うきっかけとなりました。
- Study in Japanが一番美しく、来るのが楽しみと多くの方が仰っていました。
- 今年はじめてNAFSA2025サンディエゴ大会に参加し、例年に比べると参加者が減少したとのことでしたが、それでも今年は100か国、8,000人以上が参加し国際的な熱気と活気にあふれた大会だったと感じた。多様な国・地域の教育機関が集い、最新の国際教育トピックに触れることができ、非常に有意義な時間となった。日本ブースについては、参加機関の数も多く、パンフレットやディスプレイなども洗練されていると感じた。また、他大学の担当者の方々と直接顔を合わせて意見交換できたことで、国内の国際教育における課題や工夫なども共有でき、非常に励みになった。今回大会を通じて築いたネットワークは、今後の業務においても大きな財産になると確信した。
- 既存の協定校との情報交換や新規開拓等、NAFSA2025の参加目的を概ね達成することができ、有意義な大会となりました。日本合同ブース内に出展させていただいたことで、より多くの海外の大学から関心を寄せていただき、今後に繋がる積極的な交流ができたと思います。この度はお世話になり、ありがとうございました。
- いつもありがとうございます。日本ブースの位置が入口からも見つけやすく、協定校以外の方々との打合せにも最適と感じております。桜の飾りも含めて、日本ブースの盛り上げに感謝申し上げます。
- ・アメリカをはじめ各国の高等教育機関の現状を肌で感じられる良い機会であった。
・ブース不在時に訪ねてくる大学等があった場合、いつも適切に対応くださっており大変助かっている。
- 初めてNAFSAに参加しましたが、Study in Japanパビリオンのインフォメーションブースや各大学・機関ブースに絶え間なく来訪者がおり、日本留学が注目されていることを直に感じました。

NAFSA2025サンディエゴ大会に 参加された感想や出展に関するご意見などをお聞かせください。

8. NAFSA2025の感想・意見（自由記述）

回答数=16

- 今回のNAFSAでは、ブースでのミーティングに囚われずに様々なフォーラムや、自分にとって興味があるワークショップに行ったらネットワークを広げることができました。そもそも目に入らなかった大学などが視野に入ってきて、コラボレーションの有り無しについて話せました。
- 全体として、米国開催にもかかわらず例年より米国の大学の存在感が感じれなかったように思いました。一方、国際教育の動向を知るという点では大変有益な国際会議であることは変わらず、参加の意義はあると思います。日本ブースは今年も大変良い場所にスペースを取っていただき、存在感を示せていました、どうもありがとうございました。
- 昨年度のNAFSAに比べるとホテル～会場へのアクセスがよかったが、物価がかなり高かった。
- アメリカの情勢の影響もあるのか、前回出展時（2023年ワシントン大会）よりも大会全体の活気や参加者数規模が少ないように思いました。
- アメリカの政権の影響もあり、日本も含めて参加大学が少ないのが残念であった。SIGも含めて、アメリカの大学とのイベントを積極的に行うか、以前実施していたように日本のレセプションを時限を区切ってパビリオン内で検討することいいのではないかと思います。
- 久しぶりのNAFSA北米参加となりましたが、特にアメリカや他の英語圏との面談、協定開拓については予想していた以上に厳しい現実があり、且つ東南アジアからの参加も少なかったことから、ブース出展に見合う効果が得られなかったというのが本音です。
- 4日目は参加者が極端に減っており、4日目の出展については無理にする必要はないように感じた。
- アポイントの隙間時間に積極的に交流ができるような場所の確保が必要なため、StudyinJAPANでの共有スペースが欲しい。
- 会場内に、ミーティングポイントがなかったことが残念に思う。